

言葉の技巧を尽くして主なる神を賛美する

111 編はカッコつきで<アルファベットによる詩>と説明される「いろは」歌である。ヘブライ語 22 文字が 22 行で展開されている。111 編は次の 112 編とセットになっている。言葉の技を尽くして主なる神を賛美する。栄光を主に帰する。そして、「知恵文学」において賛美と「教訓」「戒め」とは一つに結ばれている。ハレルヤ詩編が 113 編まで続く。

1 節 ハレルヤ (Yahweh を賛美せよ)

(アレフ 'owdeh Yahweh bākāl lēbāb) わたしは主をたたえるでしょう。わたしの全心をもって) 主なる神を賛美することが人間、信仰者の責務であり、また、喜びである。歌は「個人」の賛美から始まる。

(ベート bēōwd yəšārīm wə'ēdāh) 神賛美は「個人的」であり、しかも孤立したものではなく、「真っすぐに生きる者の集い」において、そして会衆の (ただ中で)。共同の礼拝、会衆の中でなされる。

2 節 (ギメル gədōlīm ma'āsē Yahweh) 偉大なのは主の諸御業。

(ダレト dərūšīm lekāl hepsēhem) (それを)喜びとするあらゆる人々によって捜し求められ、探求・研究されてきた。

3 節 (ヘー hōwd wəhādār – pā'olōw) 栄誉に満ち (栄養の充満)、偉大なのは彼のみ業

(ヴァウ wəsidqātōw 'ōmedet lā'ad) そして彼の義は永遠に続く。

4 節 (ザイン zēker 'āsāh ləniplō'tāw) 記憶されるべきである。何を? 主はその奇しきみ業を記憶させられる。(救済史!) 彼が成し遂げてきた不思議な諸業を!!

(ヘート hannūn wərahūm Yahweh) Yahweh は、恵み深く、憐れみに満ちておられる

5 節 (テート terep nātan līrē'āw) 彼は食べ物を、彼を畏れる者たちに与えてきた。「マナ」の記憶からキリスト教信仰の主の晩餐理解へ!

(ヨッド yizkor lə'owlām bəritōw) 彼はどこしえに彼の契約を記憶している。

6 節 (カプ kōah ma'āsāw higgīd) 彼は彼の諸々のみ業の力を示されてきた。

(ラメド lə'ammōw lātēt lāhem nahēlat gōwyim) 諸国の民らの嗣業を彼の民に与えることによって。歴史的には約束の地カナンへの定住。

7 節 (メム ma'āsē yādāw 'ēmet ūmišpat) 彼のみ手の働きは真実であり、公正である。

(ヌン ne'ēmānīm kāl piqqūdāw あらゆる彼の命令 (戒め) は確かである。信頼する価値がある。

8 節 (サメク sāmūkīm lā'ad lə'ōwlām それらはとこしえからとこしえまで (代々) 堅く立つ。
(アイン 'āsūyim be'ēmet wəyāšār それらは真実において、そして、まっすぐに行われている。

9 節 (ペー pədūt šālah lə'ammōw) 彼は彼の民に贖い (救い) を送った。
(ツアーデ siwwāh ləōwlām bərītōw) 彼は彼の契約をとこしえに命令した。
(コップ qādōwōš wənōwrā šəmōw) 彼のみ名は聖別され、恐るべきものである。

10 節 (レシュ rêšit hākmāh yir'at Yahweh sékel tōwb ləkāl 'ōsêhem) Yahweh を畏れることは知恵の初め、すべてこれらを行う人たちは良き理解を持つ。
(タウ təhillātōw 'ōmedet lā'ad) 彼の賛美 (詩編) はとこしえに続く。

7 節の「主の命令はすべて真実」、10 節の「主を畏れることは知恵の初め。これを行う人はすぐれた思慮を得る」はまさに「知恵文学」の基本的主張である。箴言 1:7、9:10 参照。このような主張が「御業」の大いなること、それが「恵み」であること、「契約」とその「記憶」、「贖い」「御名」の聖にして、おそるべきことなどと共に歌われる。被造世界 (創造そしてその維持：神の働き) と救済の歴史が一つになって展開されており、鍵はみ名の啓示と「戒め」なのである。これぞ「テヒリーム」(10 節) 詩編であり、賛美なのである